

## 現在までの日本犬

日本犬のルーツは約1万年前の縄文時代早期にまでさかのぼるといわれ、縄文時代の遺跡から、二つのひびきの中に、人と犬が抱き合うように埋葬されている例も見つかっています。それを見ると、現在の柴犬に近い体型をした犬だったようです。

岐阜大学の、日本犬と世界各地の犬たちの血液(標識遺伝子)調査によると、日本犬のルーツは、「南方由来の縄文犬が基礎犬となり、これに、恐らく弥生時代以降、朝鮮半島経由で大陸系の犬が加わってきたもの」(田名部雄一・太田克明他著「日本犬の起源ならびに大種の分化・成立過程に関する遺伝学的研究」といわれています。

海外との交易が盛んになり、様々な洋犬種がもたらされるようになって、耳が垂れた「渡来犬」に対して、日本に昔から生息する狼犬を「地犬」と呼ぶようになりました。

江戸時代には、雑種化した犬を「町犬」、地犬を「狩犬」として区別しました。

明治時代、さらに交雑が進み、日本犬は珍しい存在になります。貴重な日本犬を保存しようと、昭和3年に日本犬保存会が創立。しかし、第一次世界大戦によって日本犬は絶滅寸前。

戦後、わずか数十頭から、日本犬の純化・固定化のための計画的な作出を進めた結果、「日本犬標準」に近い体型と性質の日本犬が誕生するようになりました。

現在、わたしたちの身近にはた

## 犬そのものの素朴な良さが、日本犬の魅力です。

昭和6年には日本犬として初めて国の天然記念物に指定されました。忠犬八千公の物語でも親しまれ、海外ではシート・ジャパニーズ・ドッグと呼ばれて人気です。

### 【甲斐犬】

甲斐犬は小型と中型の間の体型で、虎毛(黒虎・赤虎・虎)という独特の毛色を持つ狼犬です。

南アルプス・北岳山麓の山梨県中巨摩郡芦原村が原産地ともいわれています。山が険しく、大きな厚壁によって閉ざされていたため、長い間、北アルプスに比べて開発も遅

くさんの日本犬がいます。これは、戦後、犬を愛する人々により、数少ない日本犬から交配を重ねて復興したものです。ある意味で、日本犬は、平和な日本を象徴する存在といえるかもしれません。

### 【北海道犬】

北海道犬は、かつてアイヌ犬と呼ばれたように、北海道の地に生きてきたアイヌの人々と生活を共にしてきました。

寒さが厳しい北の大地で、アイヌの人々は、クマやエゾシカ、サケを

捕って生活してきました。クマといっても、本州とは違い、強大なクマが相手なので、優秀な狼犬を育てることが重要でした。

北海道犬は、寒さに耐える密生した被毛で、他の中型犬に比べて、胸幅のあるがうりとした体つきをしており、驚くほど闘争心が旺盛です。舌短と呼ばれる、舌の上に

あるアザのようなくもも特徴といえるでしょう。

昭和12年に国の天然記念物に指定されましたが、戦時中から戦後にかけて激減、地元愛好家を中心に、昭和26年、天然記念物北海道

### 【柴犬】

日本各地に生息していた小型の犬を、生い茂る芝を駆け回ることから柴犬と呼んできたようです。

昭和11年、国の天然記念物に指定されました。戦後、昭和35年には天然記念物柴犬保存会が創設。

小型犬ながらきりりとした顔つきで、骨格がたくましく、筋肉質で均整がとれた体つきをしています。

日本犬ならではの鋭敏な感覚を備え、いたずらには鋭敏なませせんが、飼い主には無条件の信頼を寄せます。ことから、人気犬種となっています。

### 【秋田犬】

秋田犬は、秋田県大館地方の犬で、かつては大館犬と呼ばれていました。そのルーツは、東北の山岳地帯で狩猟生活を送っていた「マヌエ」の人々が飼っていた中型の岩手マヌエ犬です。

大館地方の佐竹(西)藩主により、大館犬が奨励された江戸時代から、より大きく強い犬にするために、マヌエイフなどの洋犬種や闘犬との交配が進みました。

昭和2年、秋田犬保存会が設立。

### 【紀州犬】

紀州犬とは、和歌山三重奈良の3県にまたがる紀伊山地において、昔から「シシノ」狼犬として活躍し、昭和9年に国の天然記念物に指定されました。

唐から戻った空海(弘法大師)を高野山の霊場に導いた白い大が紀州犬といわれています。

大きな頭部、太い頸部、深さと幅のある胸、強い背骨がっちりとした大地を踏みしめる四肢を持つています。現在では白毛がほとんどですが、以前は赤毛や胡麻毛の紀州犬もた



書田大(秋田)日本犬を愛し、その由を辿る。リシキッかわの犬大図鑑。リシキッかわの犬大図鑑。リシキッかわの犬大図鑑。